

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

牧野高校の教育方針

本校教育の3本柱である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。

めざす学校

生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、

1. かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校
2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校
3. 何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校

2 中期的目標

1. 「確かな学力」の育成と授業改善（「 」内は学校教育自己診断におけるアンケート設問事項。以下全て同様。）

(1) 新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等の先行きを見据えて、「確かな学力」の育成とそれのための授業改善を進める。

ア 令和元年度に発足した校内の『パッケージ研修導入に係る授業力改善委員会』を『授業力改善委員会』に発展させて持続的な授業改善をめざす。

※ 「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定回答を令和4年度までに80%以上にする（平成29年度69%、平成30年度76%、令和元年度77%）。

イ 『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。

※ 令和4年度までに85%以上の教員が定常的にICTを活用した授業を実施できるようにする（平成29年度59%、平成30年度80%、令和元年度81%）。

※ 令和4年度までに85%以上の生徒がICTを活用した授業が多いことを実感できるようにする（平成29年度54%、平成30年度81%、令和元年度83%）。

ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。

※ 「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』」を令和4年度に55%以上にする（平成29年度45%、平成30年度47%、令和元年度49%）。

※ 「授業の予習、復習は『できていない』」を令和4年度に5%以下にする（平成29年度12%、平成30年度10%、令和元年度9%）。

エ 新学習指導要領を踏まえ、生徒の進路希望が叶うカリキュラムの設定を追求するとともに令和4年度からの完全実施に向けての準備を進める。

※ 新学習指導要領を踏まえ、校内に発足した『新教育課程対応推進委員会』で生徒の進路希望が叶うカリキュラムを追求しつつ、完全実施に備える。

2. グローバル人材の育成

(1) 多様化・国際化する社会の中で、国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるよう校内外での英語や外国語の使用機会を増加させる。

ア 校内に発足した『国際教育推進委員会』を中心に、校内外での英語使用機会の増大を図り、校内英語暗唱大会の開催や短期留学制度の導入等を推進する。

イ 校内外における英語や外国語の使用機会の拡大策として、近隣の大学の学生や留学生等との様々な交流機会の可能性を模索し、実施していく。

3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現

(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための、生徒、教職員、保護者の意識を醸成する。

ア 生徒、教職員、保護者への人権教育、人権意識醸成の機会や、情報モラル、メディアリテラシー等に関する適切な知識を得るための機会を作っていく。

(2) 生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒に大学進学等のその先を見通したキャリア形成や社会での役割・使命を意識させ、希望の進路の実現を図る。

ア 非認知能力を育む部活動の活発さを持続しつつ、生徒の学力が維持伸長する校内環境を保持する。

※ 「牧野高校は楽しい」への生徒の肯定的回答を令和4年度まで90%以上で維持する（平成29年度94%、平成30年度91%、令和元年度92%）。

※ 「体育祭の内容は満足できるものである」や「文化祭の内容は満足できるものである」の生徒肯定回答85%以上を維持する（令和元年度各89%、86%）。

※ 「部活動は活発である」への生徒の肯定的回答を令和4年度まで90%以上で維持する（平成29年度94%、平成30年度94%、令和元年度94%）。

※ 「部活動と学習の両立ができている」の生徒肯定回答を令和4年度には70%以上をめざす（平成29年度64%、平成30年度62%、令和元年度67%）。

イ 進路について生徒に意識させる機会や、考えさせる機会をわかりやすくするとともに多く持つ。

※ 「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒肯定回答を令和4年度80%にする（平成29年度77%、平成30年度81%、令和元年度78%）。

※ 「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定回答を85%以上で維持する（平成29年度80%、平成30年度85%、令和元年度86%）。

ウ 生徒に、大学進学等のその先、10年、20年後を見越したキャリア形成や、社会での役割等を意識させるため、外部講師の講演や外部施設見学を推進する。

※ 入学時には国公立大学進学希望の生徒が多いことに応えるべく、地方を含めた国公立大学の情報提供と進学対策が出来る機会となる講演会を行う。

※ 生徒が憧れる国公立大学や同志社大学への訪問や講義受講の計画と実施のほか、国公立大学や同志社大学出身の外部講師の講演等を実施する。

エ 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるために、進路指導体制の充実を図る。

※ 卒業直前までバランスのとれた学力を身につけさせるべく、令和4年度までに大学入学共通テスト（令和元年度までは大学入試センター試験）の出願者を卒業見込み者の80%（平成29年度69%、平成30年度76%、令和元年度77%）にするとともに、その出願者のうちで5教科7科目の出願者を60%（平成28年度23%、平成29年度35%、平成30年度41%、令和元年度52%）にすることをめざす。

※ 令和4年度までに、国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者数の30%以上（平成28年度12%（44名/354名）、平成29年度16%（56名/358名）、平成30年度20%（78名/395名）、令和元年度18%（63名/354名））にし、現役合格者数を卒業見込み者数の10%以上（平成28年度4%（13名/354名）、平成29年度6%（23名/358名）、平成30年度5%（19名/395名）、令和元年度4%（13名/354名））をめざす。

4. 教職員の資質の向上及び授業力の強化

(1) 教職員研修を充実させるとともに、教職員の授業力向上のための施策を検討、実施する。

ア 教職員が、生徒を理解し、いじめについての相談を含め、個々の必要に応じた相談が受けられるように、教職員研修を充実させる。

※ 「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の生徒肯定100%をめざす（平成29年度80%、平成30年度82%、令和元年度83%）。

※ 「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」の生徒肯定率80%以上を維持する（平成29年度72%、平成30年度80%、令和元年度76%）。

イ 学校経営支援グループの「育成支援チーム事業」か教育センターの「パッケージ研修支援」事業に応募して、外部指導者による教職員の研修を行う。

(2) 教職員の長時間勤務の縮減

ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務の見直し等や、「全校一斉休日」などの実施を徹底し、教職員の長時間勤務を縮減する。

府立牧野高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は、最近4年間で69%⇒76%⇒77%⇒78%となり、前年度より1ポイント改善して4年間では9ポイント改善した。このうち「よくあてはまる」の回答は、最近4年間で9%⇒15%⇒16%⇒19%となり、前年度より3ポイント改善、4年間で10ポイント改善した。3年前に普通教室と理科教室の全32教室に電子黒板機能付超短焦点プロジェクターが設置され、昨年度に展開教室等3教室にも追加設置出来て、ICT活用環境が整い、生徒がわかりやすい授業が増えていると考えられる。 ・「ICT機器等を活用した授業を行っている」に肯定的な回答をした教員は、最近4年間で59%⇒80%⇒81%⇒93%となり、前年度より12ポイント増加し、4年間では34ポイント増加した。このうち「よくあてはまる」の回答が、最近4年間で18%⇒31%⇒36%⇒43%となっていて、前年度より7ポイント増加、4年間では25ポイントの増加となった。昨年度、今年度と2年連続して校内で、大阪府教育センターの「パッケージ研修」を活用し研究授業や研究協議を行い、電子黒板や電子ペンの利用法が多くの教員に知られることになり、ICTを活用授業をする教員が大きく増えたと思われる。 ・「ICT機器やネットワークを利用した授業が多い」への生徒の肯定的回答も最近4年間で54%⇒81%⇒83%⇒91%となり、前年度より8ポイント増加し、4年間では37ポイント増加した。このうち「よくあてはまる」の回答は、最近4年間で11%⇒29%⇒36%⇒47%となり、前年度より11ポイント増加、4年間で36ポイント増加した。本校のICT環境改善成果が出ていると考えられる。 ・「授業の予習、復習が『できている』、『まずできている』」を合計した生徒の回答は、45%⇒47%⇒49%⇒53%と前年度より4ポイント、4年間で8ポイント増加し、『できていない』と回答する生徒は12%⇒10%⇒9%⇒8%へ4年間で4ポイント減少した。着実に改善しつつあるが、引き続き重視していきたい。 ・「学校の授業以外で1日当たり平均学習時間が2時間以上」と回答する生徒は、最近3年間で、1年生は13%⇒20%⇒20%で前年度同様ながら、2年生は20%⇒24%⇒38%と前年度から14ポイントの大きな伸びを見せ、3年生では83%⇒75%⇒75%で前年度と同様であった。3年生が大学入試制度の変更に当たる学年で、昨年度同様に指定校推薦入試等での合格者が増える安全志向が強くなり、平均学習時間が伸びなかった一方で、1、2年生では、家庭などでの学習時間が増加する者が多い傾向にあり、これらの学年からは、家庭学習時間確保を意識できつつあるのは、頼もしいと感じている。 ・「学校の授業以外で1日当たり平均学習時間が1時間未満」と回答する生徒は、最近3年間で、1年生は43%⇒33%⇒29%と14ポイント減少し、2年生は38%⇒31%⇒15%と23ポイント減少したが、3年生は8%⇒11%⇒10%であった。1、2年生には、大幅に改善の傾向がある。引き続き働きかけをしていきたい。 ・「図書館が利用しやすい」に対する生徒の肯定的回答は前年度比2ポイント増の77%となった（1年生66%⇒75%、2年生70%⇒74%、3年生88%⇒82%）。担当教員の努力の結果で、生徒の自習室として良く利用されている。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「牧野高校は楽しい」への生徒の肯定的回答は89%で、新型コロナウイルス感染症による学校行事中止等にも拘らず、依然として高水準を維持している。 ・「牧高フェス2020の会場は満足できるものである」の生徒の肯定的回答93%、「牧高フェス2020の内容は満足できるものである」の生徒の肯定的回答88%で、新型コロナウイルス感染症の影響による初の行事は、満足度が高かった。 ・「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答は、最近4年間で80%⇒82%⇒83%⇒84%となり、このうち「よくあてはまる」は18%⇒27%⇒25%⇒32%となった。同じ質問に対する保護者の肯定的回答も、84%⇒81%⇒85%⇒84%となり、このうち「よくあてはまる」は14%⇒18%⇒15%⇒18%となった。生徒に行う1年に2度の「いじめに関するアンケート」等を使いながら、引き続きしっかりと取り組みを続けていきたい。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」の生徒の肯定的回答は、最近4年間で72%⇒80%⇒76%⇒78%となり、このうち「よくあてはまる」は20%⇒30%⇒27%⇒32%となった。こちらも学校として大事にしていきたい。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は最近4年間で77%⇒81%⇒78%⇒80%となり、このうち「よくあてはまる」は19%⇒27%⇒27%⇒31%となった。進路に関する指導や説明を大事にしたい。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」への生徒の肯定的回答は、最近4年間で80%⇒85%⇒86%⇒89%に増加、このうち「よくあてはまる」は26%⇒32%⇒34%⇒41%と一層増加することとなった。進路指導部や学年団の教員とともに、学校として多くの機会を持ち、しっかり取り組んでいきたい。 ・「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」への生徒の肯定的回答は最近4年間で75%⇒72%⇒72%⇒75%であり、同じ質問への保護者の肯定的回答は最近4年間で72%⇒69%⇒72%⇒76%であった。引き続き生徒への多様な機会の提供に努めたい。 ・「部活動は活発である」の生徒の肯定的回答は93%で、同じ質問への保護者の肯定的回答は92%で、新型コロナウイルス感染症の影響下ながら高水準を維持した。 ・「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答は、最近4年間で64%⇒62%⇒69%⇒73%となり、このうち「よくあてはまる」は19%⇒20%⇒22%⇒29%と、新型コロナウイルス感染症の影響にも拘らず、今年度伸長することとなった。同じ設問に対する保護者の肯定的回答は、最近4年間で64%⇒62%⇒65%⇒64%で、このうち「よくあてはまる」は24%⇒22%⇒22%⇒22%であった。昨年度から新たな部活動指針の導入による部活時間の見直しを実施しており、今年度は新型コロナウイルス感染症による制約も多くあったが、各部活動は従来通りかそれ以上に好成績を収めた。生徒や保護者が学習との両立を 	<p>【第1回】令和2年7月28日</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナに関して学校に来にくくなっている生徒はいないのか。 ⇒新入生には特に見られないが、学校全体では若干名、学校再開後から教室に入りにくくなった生徒はいる。学校休業中に生活のリズムが狂ったり、例年の4月、5月から徐々にクラスに慣れる時間がなく、6月から変則な分散登校で学校が始まって、クラスに馴染む時間がなかったりなどの影響も考えられる。既に本校のスクールカウンセラーに対応してもらったり、医師の診察を受けてもらったりしている。保護者とも連携しながら、保健室から授業に行くなど、学校に出来る限りの対応をしているところである。 ○コロナで課題が見えたようだ。インターネット環境が不足していると感じる。牧野高校に限ったことでなく、府立高校の課題と感じた。 ○今年度の修学旅行はどうするのか。 ⇒本校は10月に予定通り沖縄へ行く計画である。2泊を民泊の予定であったが、最近になって民家の受入れが難しくなったという連絡があり、3泊全てホテル泊で対応するようにした。海外を予定していた学校は、全て国内に変更になっている。日程を変更すると、宿泊場所等が取れなくなる恐れがあるので、今後事情が変わらなければ予定通り10月半ばで実施したいと考えている。 <p>【第2回】令和2年12月4日</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症への不安から登校しにくい生徒はいるか？ ⇒2カ月の学校休業で、新学年のスタートが6月からと変則になり、教室に入りにくくなりしたりした生徒等が数名いる状況だが、少しずつ快方に向かってきている。 ○濃厚接触者等の出席停止扱いの生徒への課題等の対応は？ ⇒多くの学校にならってグループウェアを導入しているが、本校ではさらにオンライン予備校サービスを導入することにより、5教科を中心に課題を提示し、学習に対応できる体制をつくっている。また、連絡網としては、楽メを通じて保護者・生徒・教職員に対応している。 ○グループウェアを活用しての授業提供は？ ⇒動画作成における労力が一人ひとりの教員にとっては大きすぎることで、本校の通信能力が充分ではないと判断しているため、グループウェアとオンライン予備校サービスを併用し、オンラインとオンデマンドでの授業提供を全教科で準備を進めている。 ○大学では、講義の様子を動画撮影し、動画配信サービスを通じて配信し、学生が閲覧できるようにしているところが多くなってきている。 ○緊急事態宣言が出されたことによる学校への影響は？ ⇒4、5月の2か月分を取り戻すことが大事であり、今休業すると、年間スケジュールを消化できないので大変である。 ○この禍をプラスにしてもらえれば・・・ ⇒今後もコロナとの共存が必須であると考えており、学校の行事等の在り方を検討している。 ○パッケージ研修については、先生が目線で動画を撮影し、協議の資料として振り返りをされているICTの活用は素晴らしい試みであると感じた。最も進んだ授業改善手法の一つであり、続けていただきたい。 ○修学旅行の行先は？ ⇒320名の生徒が宿泊できる施設を確保しにくいことと、もし発症した場合の対応などを考慮しながら検討している状況である。 ○コロナ禍において、経済的理由等で進学を断念する状況はないか？ ⇒現段階では、そのような情報はキャッチしていない。 ○コロナ禍での大学受験の対応はどのようになっているか？ ⇒受験生の距離を2mほど離すなどの対策をとっている大学もあるようだ。経済的支援については、授業料の無償化を制度として設けている大学もあるようだ。 ○レッドステージ移行後の教育活動についての専門家の意見の中で、高校生のアルバイトについては、飲食関連の夜の時間帯を避けることとあるが、クラスター発生はバイト先が多い傾向にもあるので注意されたい。 <p>【第3回】令和2年2月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ぜひ、現状の取り組みを維持してほしい。数字にあらわれていないような懸案事項はあるか？ ⇒コロナがきっかけで学校生活を十分に送っていない生徒も複数あるが、専門家にも相談し、学校として、教職員が協力しながら対応している状況である。 ○学校外から見ても、評価アンケートの数値が上昇していることが感じられるので、引き続き取り組みを継続していただきたい。 ○制服化導入による差(違い)は感じられるか？ ⇒因果関係はわからないが、導入後の遅刻者数が大幅に減少傾向にある。2年前に比べて半減して、年間2千件近くあったのが今年度は1千件を楽に切りそうだ。制服の問題だけではなく、学校生活の環境整備や指導も合わさっていると思われる。 ○牧野高校の様々な点に配慮したヴァリエーションの設定は素晴らしい。また、授業についてはICT化の推進だけでなく、指導内容の変化についても調整をされるとより楽しくわかりやすい授業につながると思う。 ○生徒の授業アンケートが、校内全平均で3.33の高水準となり、喜ばしく充実した状況である。20代、30代の先生方の評価が高いのが素晴らしく、経験豊かな先生方との融合が楽しみである。 ○超過勤務の推移については、新型コロナウイルス感染症の影響で変則となっているが、年々前年比減少傾向にあるのでこのまま進んでほしい。 <p>令和2年度学校経営計画及び学校評価(案)、令和3年度の学校経営計画および学校評価(素案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出席委員全員による承認がなされた。

<p>困難に感じないように、「ノークラブデー」の徹底等、新たな部活動指針に基づいた効率的で有効な部活動の時間としていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・保護者では、「牧野高校は将来の進路について適切な指導を行っている」への肯定的な回答が増えたり（77%⇒78%⇒82%）、「牧野高校は、生徒に生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を養おうとしている」に対する肯定的な回答が増えている（84%⇒87%⇒88%）。	
--	--

府立牧野高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「確かな学力」の育成と授業改善	(1) 「確かな学力」の育成と授業改善 ア 『授業力改善委員会』を発展させて持続的な授業改善 イ ICTを活用した授業推進 ウ 生徒への授業の予習、復習の習慣づけ指導 エ 生徒の進路希望が叶うカリキュラム設定追求と新学習指導要領の対応準備	(1) 新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等の先行きを見据えて、「確かな学力」の育成とそのため授業改善を進める。 ア・令和元年度に発足した校内の『パッケージ研修導入に係る授業力改善委員会』を発展させて持続的な授業改善をめざす。 イ・『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。 ウ・入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。 エ・新学習指導要領を踏まえ、生徒の進路希望が叶うカリキュラムの設定を追求するとともに令和4年度からの完全実施に向けての準備を進める。	ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答を78%以上にする(令和元年度77%)。 イ・ICT活用する授業を実施する教員と、生徒の実感を何れも83%以上にする(令和元年度各81%、83%)。 ウ・「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』」の生徒を50%以上にする(令和元年度49%)。 ・「授業の予習、復習は『できていない』」を8%以下にする(令和元年度9%)。 エ・『新教育課程対応推進委員会』で生徒希望進路が叶うカリキュラムを追求する	ア・大阪府教育センターの支援を得て新型コロナウイルス感染症防止対策をしつつ昨年度に引き続き『パッケージ研修』を行い、「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は78%となった(令和元年度77%)。(○) イ・多くの教員が上記の授業改善運動に参加し、ICT活用する授業を実施する教員は93%、生徒の実感も91%と飛躍的に伸びるところとなった(令和元年度各81%、83%)。(◎) ウ・「生徒の授業の予習、復習は『できている』」が10%、(令和元年度8%)『まずできている』が43%(令和元年度41%)で、合計で53%になった(令和元年度49%)。(◎) ・「授業の予習、復習は『できていない』」は8%となった(令和元年度9%)。(○) エ・『新教育課程対応推進委員会』で精緻に検討し、国公立理系希望者等、生徒の進路希望に合う新教育課程用カリキュラムが完成した。(◎)
2. グローバル人材の育成	(1) 校内外での英語使用機会の増加 ア 校内外英語使用機会増大 イ 近隣大学の学生や留学生等との英語交流	(1) 英語コミュニケーション力を生徒に習得させるように校内外での英語や外国語の使用機会を増加させる。 ア 『国際教育推進委員会』を中心に、校内外での英語使用機会の増大を図り、校内英語暗唱大会の開催や短期留学制度の導入等を推進。 イ 近隣の大学の学生や留学生等との様々な交流機会の可能性を模索し、実施する。	ア・『国際教育推進委員会』を中心に、校内英語暗唱大会等の実施や短期留学制度の創設等を検討推進する。 イ・近隣の大学の学生や留学生等との外国語による様々な交流機会の可能性を模索、実施、拡大する。	ア・新型コロナウイルス感染症の防止対策のため、校内英語暗唱大会の実施や短期留学制度の創設の検討は中断せざるを得なかった。(一) イ・関西外国語大学の留学生によるグローバルインターンシップの受入れが合意出来ていたものの、新型コロナウイルス感染症で留学生の来日が困難となり、辞退の申し出となったほか、国内留学制度等も中止せざるを得なかった。(一)
3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現	(1) 多様性、共生の意識醸成 ア 生徒、教職員、保護者の人権意識醸成、情報モラル等に係る知識習得機会の開催 (2) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア キャリア形成意識の醸成のためのキャリア教育充実と進路指導強化 イ 進路について生徒に意識させ、考えさせる機会の充実 ウ 大学進学等の先を見越したキャリア形成と意識づけのための外部講師の講演や、大学訪問、大学の講義受講等の推進 エ 入学から卒業まで、全教科で学力をつけさせる指導体制の充実	(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための、生徒、教職員、保護者の意識を醸成する。 ア 生徒、教職員、保護者への人権教育、人権意識醸成の機会や、情報モラル、メディアリテラシー等に関する適切な知識を得るための機会を作っていく。 (2) 生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒に大学進学等のその先を見通したキャリア形成や社会での役割・使命を意識させ、希望の進路の実現を図る。 ア・非認知能力を育む部活動の活発さを持続しつつ、生徒の学力が維持伸長す校内環境を保持する。 イ・進路について生徒に意識させる機会や、考えさせる機会をわかりやすくするとともに多く持つ。 ウ・生徒に、大学進学等のその先、10年、20年後を見越したキャリア形成や、社会での役割等を意識させるため、外部講師の講演や外部施設見学を推進する。 ・入学時には国公立大学進学希望の生徒が多いことに応えるべく、地方を含めた国公立大学の情報提供と進学対策が出来る機会となる講演会を行う。 ・生徒が憧れる国公立大学や同志社大学の訪問や大学内での講義の受講体験を進める。 ・京都大学等の大学関連施設の見学や京都大学、同志社大学出身の外部講師等による講演を実施する。 エ 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるために、進路指導体制の充実をはかる。 ・卒業の直前までバランスのとれた学力を身につけさせるべく、新たに始まる大学入学共通テストの志願者と、5教科7科目志願者数の増加をめざす。 ・国公立大学の現役受験者数、現役合格者数の増加をめざす。 ・国公立大学とともに生徒の中で進学希望者が多い同志社大学等への実進学者数の増加をめざす。	(1) ア・生徒、教職員、保護者の人権意識醸成や情報モラル等に係る研修機会を作る。 (2) ア・「牧野高校は楽しい」の生徒肯定回答を90%以上で維持する(令和元年度92%)。 ・「体育祭の内容は満足できるものである」や「文化祭の内容は満足できるものである」の生徒の肯定的回答を85%以上で維持する(令和元年度各89%、86%)。 ・「部活動は活発である」生徒肯定回答90%以上を維持する(令和元年度94%)。 ・「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答を68%以上をめざす(令和元年度67%)。 イ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の肯定回答を80%以上にする(令和元年度78%)。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定回答85%以上を維持する(令和元年度86%)。 ウ・地方を含めた国公立大学の魅力や受験情報等の提供ができる講演会の実施。 ・国公立大学、同志社大学の訪問と講義受講体験実施。 ・京都大学等の関連施設(京大総合博物館等)の訪問。 ・京都大学、同志社大学出身の講師の講演を実施する。 エ・大学入学共通テストの志願者数や5教科7科目の志願者数の増加をめざす。 ・国公立大学現役受験者数を卒業見込者の6%以上、現役合格者数を6%以上をめざす(令和元年度4%)。 ・国公立大学と同志社大学の実進学者数を増加させる。	(1) ア・新型コロナウイルス感染症で学校開始が6月になる中、日程を変更しながら、1年生は在日外国人・多文化共生や、「命」の問題に加え、アニメ「めぐみ」鑑賞による拉致問題と、外部講師による同和問題の年4回の人権学習を行い、2年生は沖縄に係る映画鑑賞や外部講師による2回の人権学習、3年生は性的マイノリティの人権とデートDVの2回の学習を行った。教職員は同和問題の研修等を実施した。(◎) PTAは全国大会等全行事が中止された。(一) (2) ・ア・新型コロナウイルス感染症で従来型の体育祭や文化祭を中止せざるを得ない中、9月に丸善インテックアリーナを1日借りて、体育祭に文化祭要素を加味した「牧高フェス2020」を行った結果、「牧野高校は楽しい」の生徒の肯定回答は89%、「牧高フェス2020の会場は満足できるものであった」の生徒の肯定回答は93%、「牧高フェス2020の内容は満足できるものであった」の生徒の肯定回答は88%であった。(◎)。 ・「部活動は活発である」生徒肯定回答は93%で、「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答は73%に向上した(◎)。 イ・外部講師講演会や各種研修会等を実施の結果、「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定回答は80%になり、「将来の進路や生き方について考える機会がある」への生徒の肯定的回答は89%へと増加した。(◎) ウ・新型コロナウイルス感染症への対応で、11月に1年生とその保護者を対象に、国公立大学の魅力に関する香川大学教授の講演会を動画配信で行い、200名近い保護者が参加した。(○) ・同志社大学出身のフリーアナウンサー八木早希さんの講演を10月、1年生に実施した。(○) ・国公立大学、同志社大学の訪問と講義受講体験や京都大学等の関連施設の訪問、京都大学出身の講師の講演は、新型コロナウイルス感染症のため実施することができなかった。(一) エ・大学入学共通テストの出願者数は70.0%で、このうち5教科7科目での出願者数は卒業見込者の22%(78/353名)であった。(△) ・国公立大学の現役受験者数は卒業見込者の12%(43名)、現役合格者数は2%(8名)となった。(△)

府立牧野高等学校

<p>4. 教職員の資質の向上及び授業力の強化</p>	<p>(1) 教職員研修の充実、授業力向上の施策の検討、実施 ア 相談能力養成のための教職員研修充実</p> <p>イ 「育成支援チーム事業」か、「パッケージ研修支援」への応募、実施</p> <p>(2) 教職員の長時間勤務削減 ア 校内行事の見直しや、「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」の実施を徹底、推進</p>	<p>(1) ア・教職員が、生徒を理解し、いじめについての相談を含め、個々の必要に応じた相談が受けられるように、教職員研修を充実させる。</p> <p>イ・学校経営支援グループの「育成支援チーム事業」か、教育センターの「パッケージ研修支援」事業に応募して、外部指導者による教職員の研修を行う。</p> <p>(2) ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、昨年度に実施した職員会議のデータベース化、ペーパーレス化による会議時間削減や、新たな部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、更には電子黒板導入による教材の共有化・効率化で、一層の超過勤務削減を進める。 ・校内行事等の見直しを行うとともに、教職員の意識改革を図り、「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」の実施を徹底、推進していく。 ・実行性ある働き方改革の施策を立案、実施する。</p>	<p>(1) ア・「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定率 100%をめざす(令和元年度 83%)。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」への生徒の肯定的回答 80%以上をめざす(令和元年度 76%)。</p> <p>イ「育成支援チーム事業」か、「パッケージ研修支援」へに応募し、実施する。</p> <p>(2) ア・教職員一人あたりの超過勤務時間数を、前年度比 3%、平成 29 年度比 15%の削減をめざす。 ・校内行事の見直し、廃止等を検討し、実施して行く。 ・実行性ある働き方改革の施策を立案、実施する。</p>	<p>(1) ア・生徒への「いじめに関するアンケート」の年度内 2 回の実施と、アンケート結果に対する丁寧な対応をした結果、学校教育自己診断の「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定率は、従前から 80%⇒82%⇒83%⇒84%と徐々に向上し、同じ質問に対する保護者の肯定的回答も 84%であった。(△) ・「牧野高校には悩みを相談できる場(人や)部屋がある」への生徒の肯定率は 78%となった。(△) 前年度に新設した「相談室委員会」と「就学支援委員会」で、新型コロナウイルス感染症により登校し辛くなったりした生徒に個別に対応する体制を強化したが、引き続き丁寧で生徒に寄り添った対応と体制整備を進めたい。 イ・「パッケージ研修支援」事業を 2 年連続で導入し、教員にウェアブルカメラをつけて研究授業をする斬新な手法が評価されて、教育センターから他校へ紹介されることになった。(◎)</p> <p>(2) ア・今年度は年度当初から新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、4 月から 6 月までは多くの教職員のテレワークを実施した。また、部活動や学校行事についても、新型コロナウイルス感染症に係るガイドライン等に従い抑制、限定的に行った。また、昨年度から導入した職員会議のデータベース化、ペーパーレスによる会議時間変更や電子黒板利用による教材等の共有化・効率化も推進した。(○) ・これらの結果、教職員一人あたりの超過勤務時間数は、前年度比 6%、平成 29 年度比 29%の削減ができた。(◎)</p>
-----------------------------	---	--	--	--